

【概要ページ】

東九州自動車道 西都～清武JCTの事業評価

事後評価

1. 主な効果

東九州自動車道 西都～清武JCTの開通により

- (1) 交通事故の減少
- (2) 農林水産品流通の利便性向上
- (3) 空港へのアクセス向上
- (4) 主要な観光地へのアクセス向上

などの効果が発現されました。

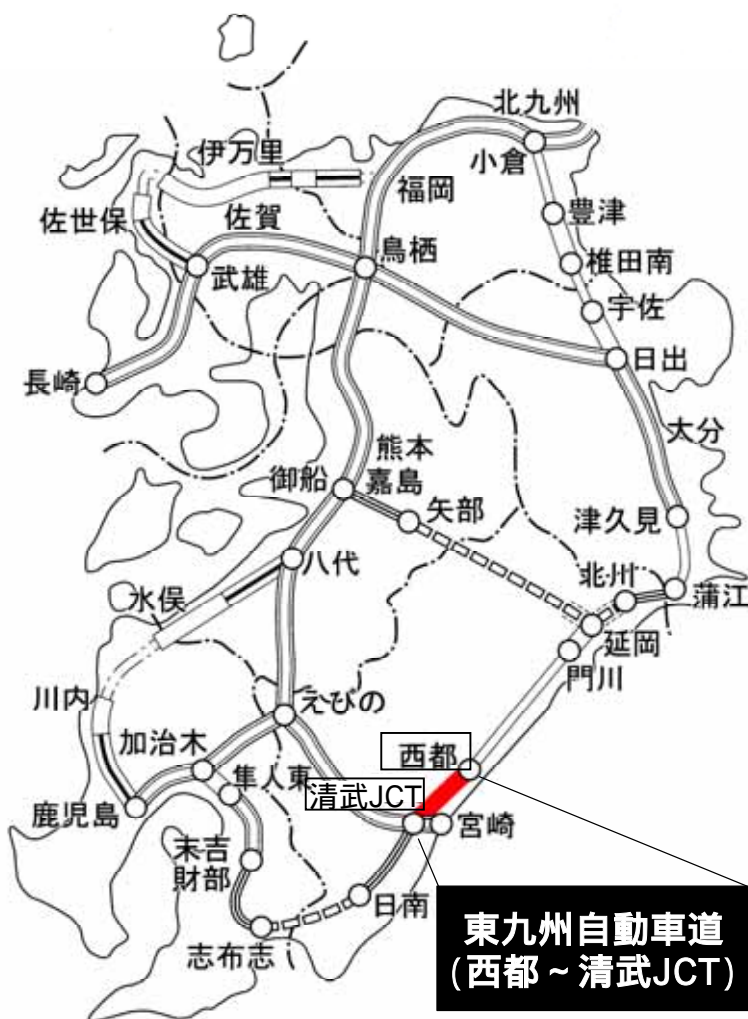
2. 費用と効果の確認

本事業にかかる費用と生じる便益により、算出される費用便益比は1.7となります。

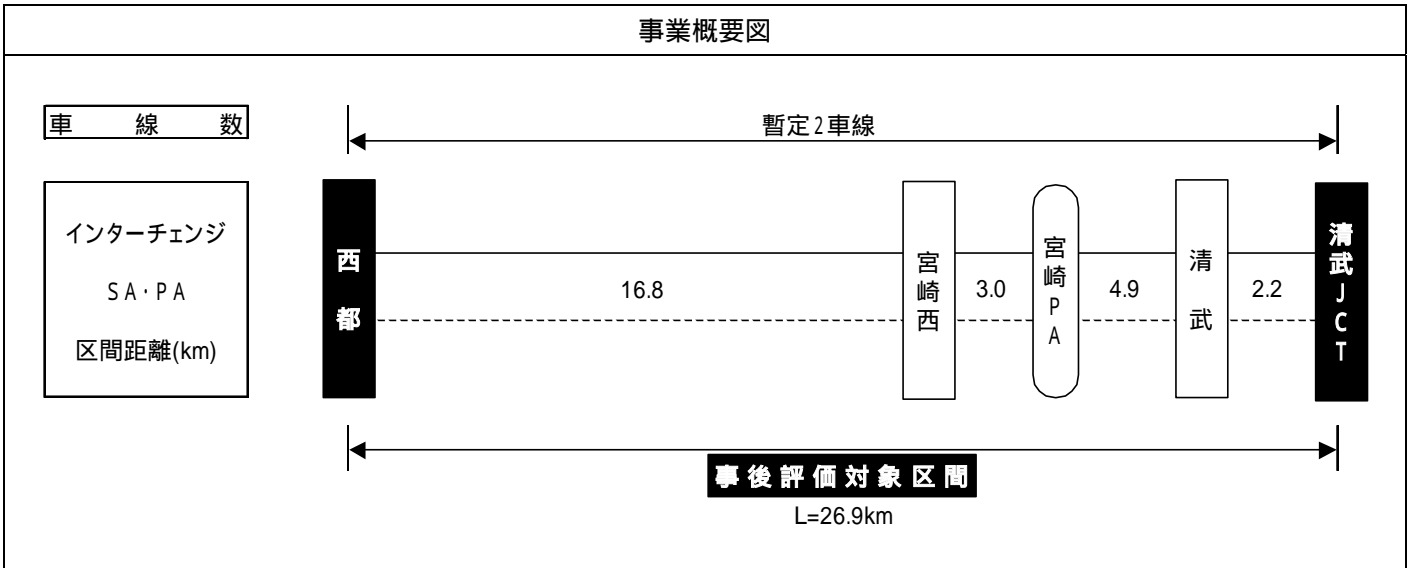
費用便益比 = 1.7

3. 地図

位置図



事業概要図



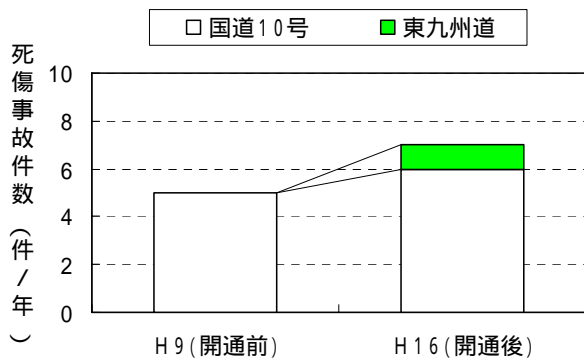
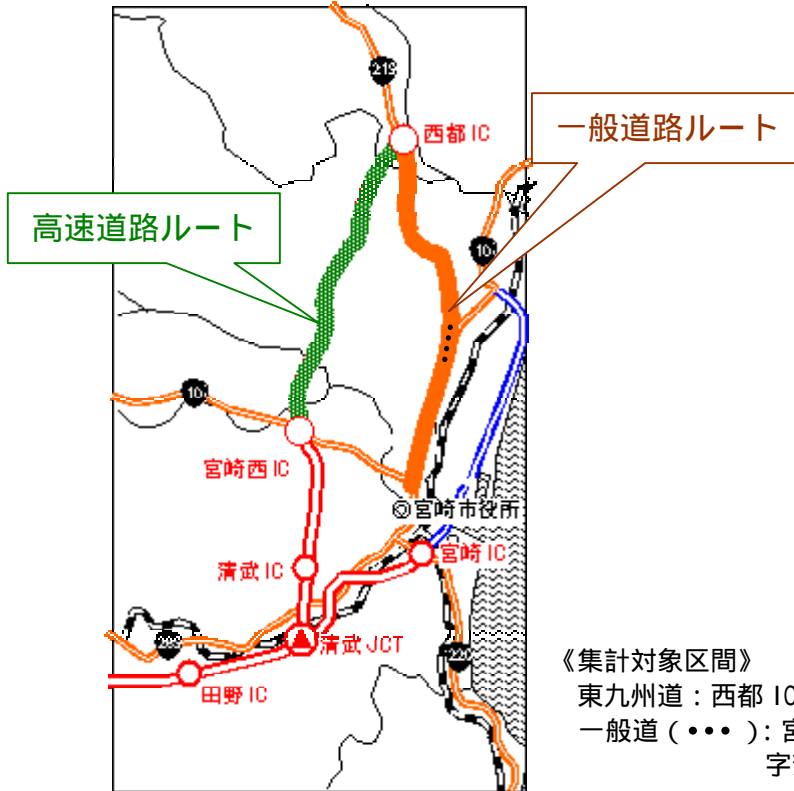
4. 事業概要

事業名	事業区分	事業主体	起終点	延長	全体事業費
東九州自動車道 西都～清武JCT	高速自動車国道	西日本高速道路(株)	自：宮崎県西都市大字岡富 至：宮崎県宮崎郡清武町大字 今泉	26.9 km	838 億円

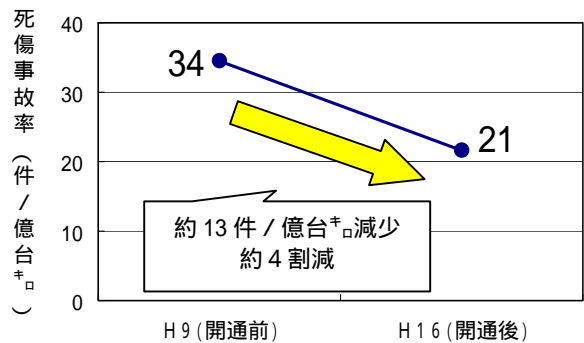
(1) 交通事故の減少

事業前後

東九州道(西都～清武 JCT)とこれに並行する国道 10 号線を含めた死傷事故率は 34.4 件/億台^{キロ}(H9) から 21.5 件/億台^{キロ}(H16) へと約 4 割減少しました。

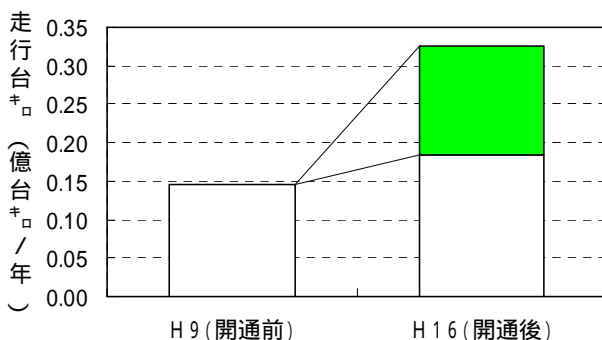


A 死傷事故件数



一般国道 10 号と東九州道を含めた死傷事故率 (A / B)

事故率 = 事故件数 / 交通量



B 交通量 (走行台^{キロ})

参考
 走行キロとは：自動車の走行距離の総和。
 (各区分延長とその区分の交通量を乗じた各区分を足しあせた総数)
 事故件数には区分交通量だけでなく自動車の走行距離による起因も含まれるので、交通量は走行台キロによるものとしています

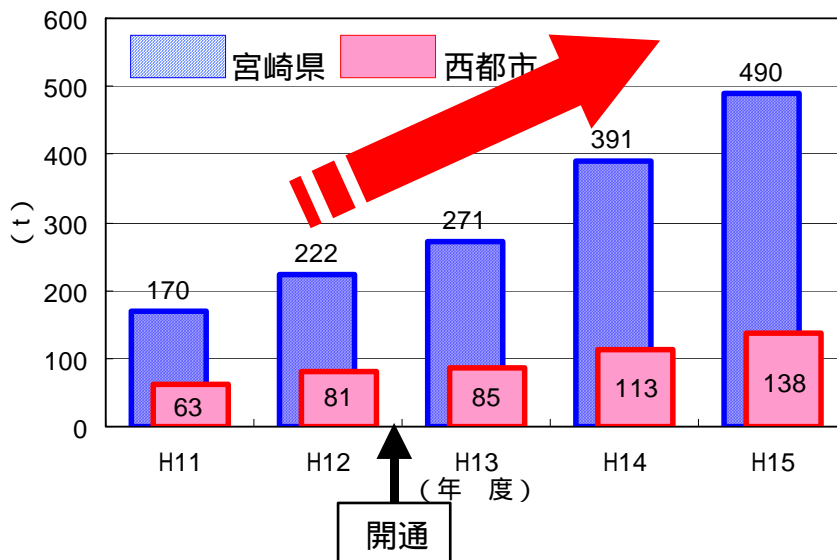
出典：事故件数：H17 センサ速報値
 交通量：道路交通センサス・西日本高速道路(株)資料

(2) 農林水産品流通の利便性向上

事業前後

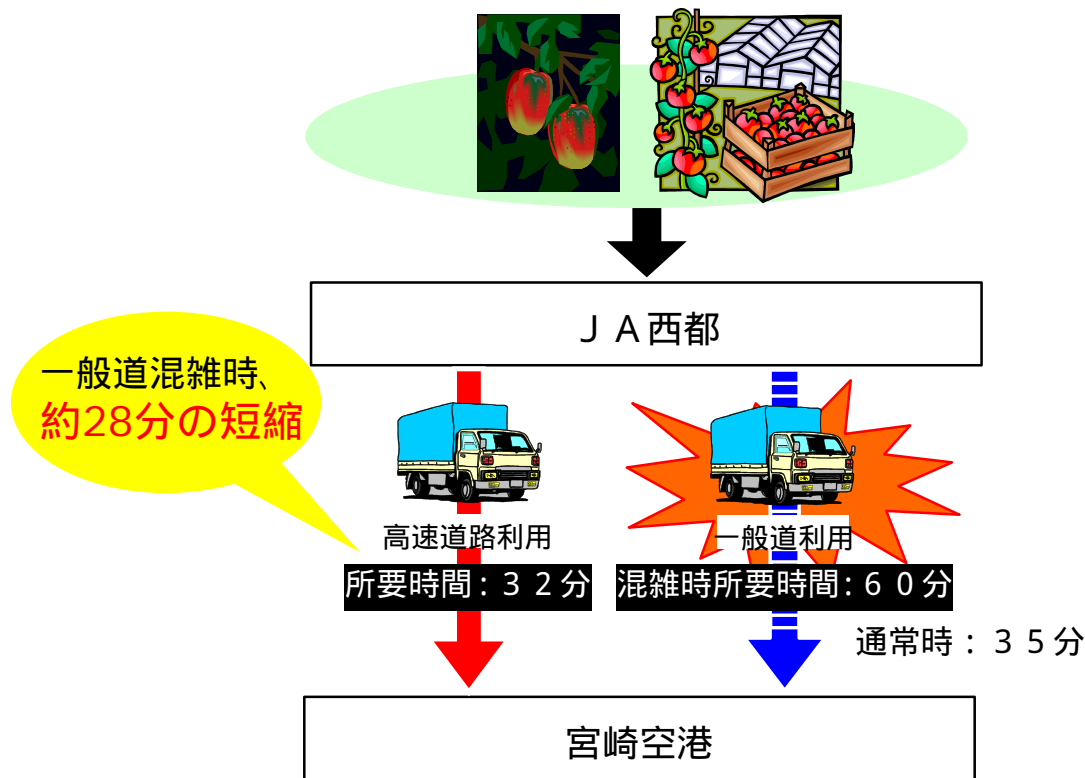
西都名産であるマンゴーの宮崎空港への輸送ルートに、一般道渋滞時には定時性の高い東九州自動車道が利用されるようになり、商品価値の向上に役立っています。

宮崎県および西都市のマンゴー出荷額の推移



出典：「園芸・工芸農作物・養蚕及び花き 市町村別統計」(宮崎県)

マンゴーの主な輸送ルート

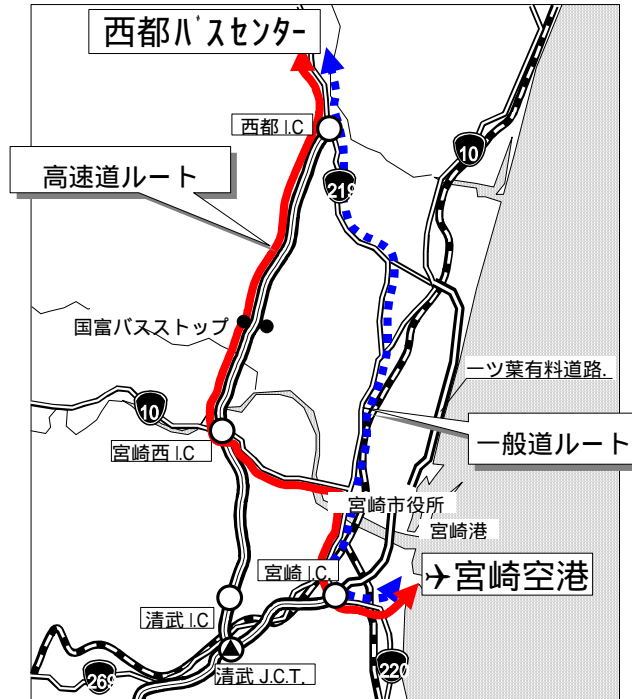


出典：JA西都ヤリング・所要時間は西日本高速道路株による実測

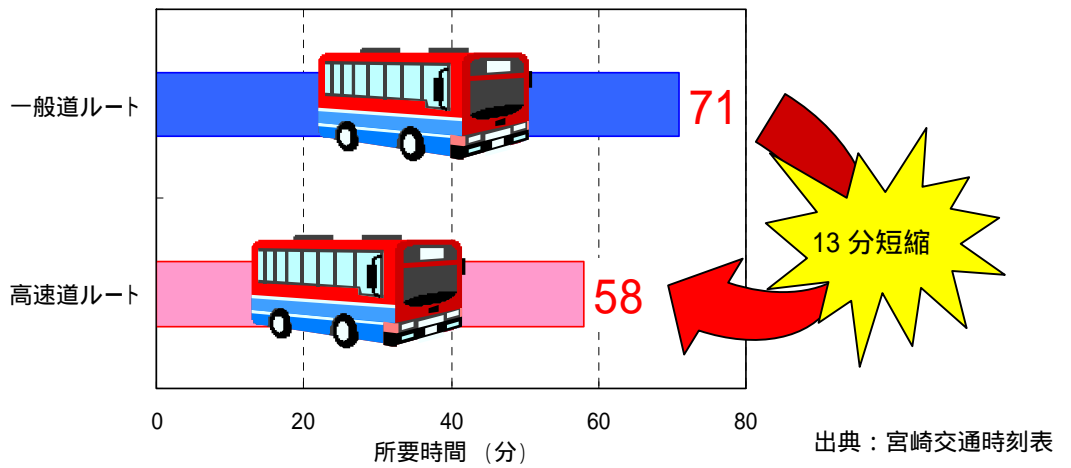
(3) 空港へのアクセス向上

事業前後

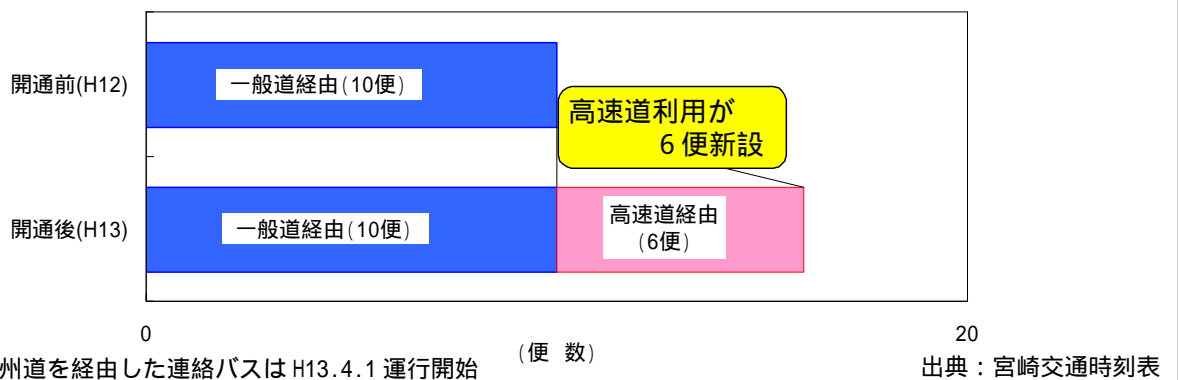
西都市と宮崎空港を結ぶ東九州道を使った連絡バスが新設され、所要時間が 13 分短縮されました。



西都～空港間路線バス所要時間の比較

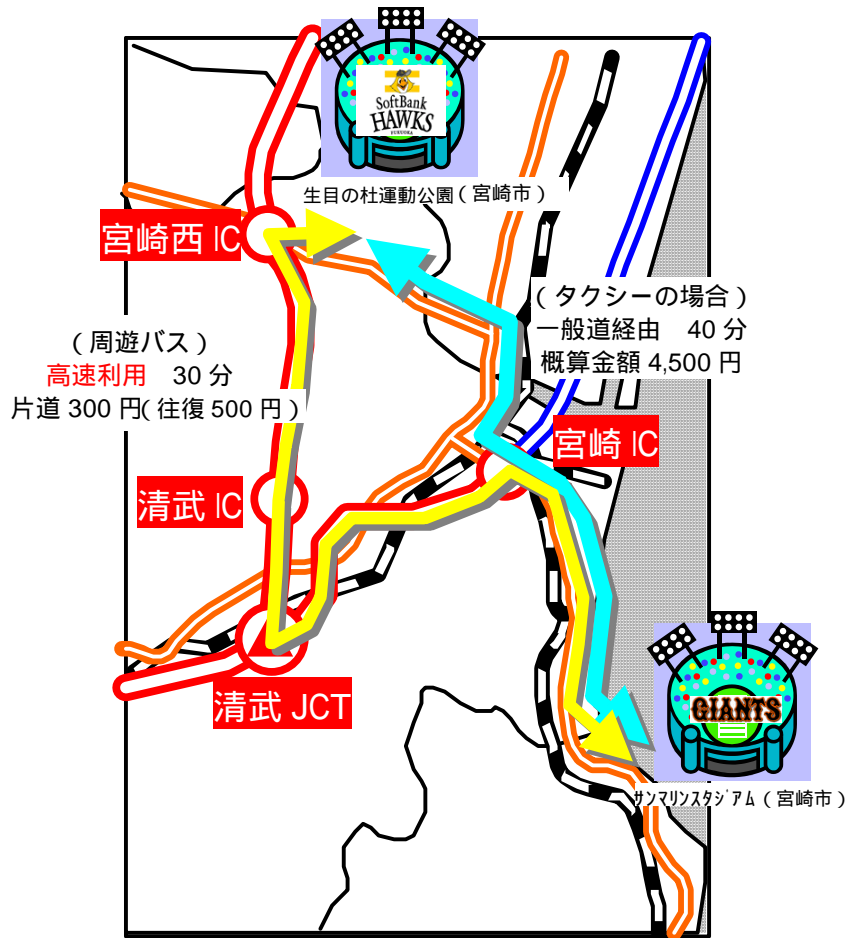


西都～空港間路線バス便数の比較

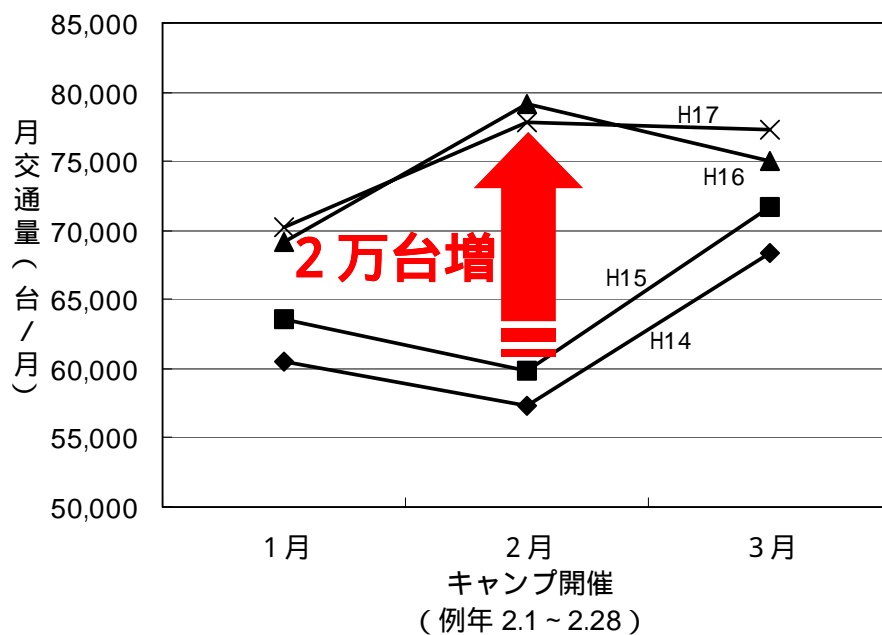


(4) 主要な観光地へのアクセス向上

宮崎県内各地で行われるプロ野球・春季キャンプ地へのアクセスが向上し、周遊バスが新設されました。



宮崎西IC出入交通量の変化



(5) 環境への配慮

野生動物の生息環境を保全するため、ロードキル防止用の「立入防止柵」、「小動物脱出路を設けた排水溝」を設置しました。

立入防止柵を縦網型に変更



- 縦網型のため、小動物の手足が引っ掛からず柵を越えることができない。
- 小動物が柵の下をくぐりぬけられない。

小動物脱出路を設けた排水溝



- 排水溝に落ちた小動物が脱出できる。

(6) 費用と効果の確認

費用便益比：1.7

道路整備の効果は多種多様ですが、このうち金額に換算できる効果に限定して、もたらされる便益を算出すると1,957億円となります。
これに対して、建設や維持管理にかかる費用は1,186億円です。
したがって、本事業にかかる費用と生じる便益より算出される費用便益比は1.7となります。

総費用		総便益			基準年
1,186億円		1,957億円			
事業費	維持管理費	走行時間短縮 便益	走行費用減少 便益	交通事故 減少便益	
1,078億円	108億円	1,706億円	182億円	69億円	

費用、便益は、供用開始後40年後までに発生するものを現在の価値に換算した上で、合計して算出しています。

四捨五入の関係で、各計数の和が合計と一致しないところがあります。